文字の色について

赤文字：単語の意味の説明

青文字：児童に促したいポイント(児童への支援の視点や発展的な内容)

緑文字：ミニ知識(補足)

[消火器説明]

①住宅用消火器には、適応する火災が絵で表示されているため、必要な用途のものを選ぶ。

消火薬剤が

・粉末のもの＝粉末の薬剤が広い範囲を覆って、火勢を抑える。制炎性の優れた粉末で消火する。

・液体（強化液）のもの＝薬剤が霧状に放射され火を消す。水系のため冷却効果と浸透性に優れており、布団火災や、天ぷら火災に効果的である。

・青丸＝電気火災用

※参照：総務省消防庁「住宅用消火器」～3 住宅用消火器Q&A

天井に火が燃え移ったら、消火器での消火は困難。服装や持ち物にこだわらず、できるだけ早く避難する。

[こんろのミニ知識]

火から離れるときは必ずこんろの火を消す。ガスこんろに火をつけているのを忘れてしまったり、電話やお客さんが来てその場を離れてしまったりすることで起きる火事はとても多い。

※参照：横浜市「こんろ火災」

火事が起きたら？〈その❷〉

消火器を正しく使おう

火事は、火が小さい初めのうちなら、消すことができるよ。自分たちで消火できるときは、逃げ道を考えてから、消火器で火を消そう。ただし、危ないと思ったときは、消火をやめ、すぐに避難しよう。

1. 火事を発見した場合は、すぐに大きな声で周りの人に知らせる。
2. 燃えている物の3～5mくらい離れた安全な場所まで運ぶ。
3. 黄色い安全栓を抜く。
4. ホースをはずし、しっかり持ち、火元に向け、レバーを強く握る。

火事の予防をしよう

火事で危ない目に合わないためには、火事を起こさないことが一番！いろいろな火事の原因と防ぐ方法を勉強して、火事をなくそう。

こんろ

・料理中に火を使っているときは、その場を離れないようにし、離れるときは、火を消してからにしよう。
・台所の整理整頓をしよう。
・着ている服に火が接しないように注意しよう。

放火（ごみ置き場などに火をつける悪い人がいるよ）

・ごみは決められた日、時間、場所に出そう。
・おうちの周りは整理整頓して、燃えやすい物を置かないようにしよう。
・物置や車庫、玄関には鍵をかけよう。

花火・火遊び

・花火は、大人と一緒に楽しもう。
・花火は、広い場所で、風のない日に楽しもう。
・必ず水バケツを用意し、火は確実に消そう。
・ライターやマッチは子どもだけでは絶対に使わないようにしよう。

住宅用火災警報器とは？

住宅用火災警報器は、熱や煙に気づくと、音やメッセージで火事が起きていることを教えてくれるよ。火事を早く発見するのに、非常に役に立つんだ。

※横浜市消防局HP（住宅用火災警報器）

横浜市　住宅用火災警報器　検索

18

消防の仕事を知ろう〈その❶〉

消防署の仕事は、大きく分けると、総務（庶務）の仕事、火事を予防する仕事、火事などの災害に出動して消火したり、人を助けたり、急病人やケガ人を病院に運ぶ警防の仕事があるよ。

◆総務（庶務）の仕事

消防職員や消防団員が働きやすいように、必要な事務をしたり、消防署の建物や消防車などの管理をする。また、消防署で使う品物などの管理をする。

◆予防の仕事

・住民のみなさんなどへの訓練・指導をとおして、火事の恐ろしさを知ってもらい、火事を出さないように呼びかけをする。
・デパートや病院など、建物にある消火器や火災報知器などが法律のとおりつけられているか検査する。

◆警防の仕事

警防の職員は、24時間ごとに交代して働いているよ。

消火活動

消防の仕事の中で一番知られている火を消す仕事

救助活動

火事で逃げ遅れた人、交通事故で車に挟まれた人などを救助する仕事

救急活動

急病人や交通事故でケガをした人などに応急処置をしたあと、病院に運ぶ仕事

火事の原因調査

火事が起きた原因は何か、どのように燃え広がっていったかなどを調べて、その結果をこれからの火事の予防に役立てる

消防の仕事質問コーナー

※横浜市消防局HP（お出かけ防災教室）

横浜市消防局　お出かけ防災教室　検索

19

[放火火災のミニ知識]

放火火災は横浜市の火災原因の上位となっており、日が沈む夕方から人々が睡眠する深夜にかけて多く発生するという特徴がある。

放火を防ぐために，家の周りに燃えやすいものを置かない等の「放火されない、放火させない環境づくり」に努めることが大切。

※参照：横浜市「放火」

[花火のミニ知識]

気軽に楽しめる花火も、火災や火傷などの事故につながりかねない。

《花火を安全に遊ぶポイント》

・風の強いときは花火をしない

・燃えやすいものがなく、広くて安全な場所を選ぶ

・説明書をよく読み、注意事項を必ず守る

※参照：総務省消防庁「火遊び・花火による火災の防止」

[火遊び火災のミニ知識]

横浜市内では過去10年間で火遊びによる火災は137件ある。時間帯別の発生状況は、13時台から18時台で89件（約65%）発生しており、子どもたちの学校が終わる放課後の時間帯に多く発生していることがわかる。

《火遊びをさせないためには》

・幼児期から火災の怖さや火遊びの危険性を教える

・保護者、学校、地域が連携して、子どもの火遊びによる火災を防ぐ

・ライター等は、子どもの目に触れない場所、かつ、手の届かない場所で厳重に保管する

※参照：横浜市「しない、させない、子どもの火遊び」